

ボイラーの炉内温度や排気温度、酸素濃度を管理するIoT制御システム



## 持続可能な企業経営を目指し、働き方改革に挑戦

### 有限会社ぽかぽか

#### 長年のこだわりを打破 元日休業を初めて導入

常連客が約8割を占める、地域に根付いた一般公衆浴場の「ぽかぽか御経塚の湯(野々市市)」を運営する有限会社ぽかぽか。温水熱源の化石燃料から木質バイオマスへの転換、業界では稀有なISO9001やISO14001の認証取得に加え、独自の非加熱殺菌法により地元の新鮮な野菜と果物を丸ごと使用するアイスキャンディ「金沢五彩(ICE POP)」の製造・販売等、新しい取り組みに積極的に挑戦している。

同社は、会社と社員が「働きがい」や「生きがい」でつながる人間尊重の経営を重視してきたため、以前から必要性を感じていた働き方改革に挑戦することを決意。「働き方改革実践講座に参加したからには、小さな取り組みでも、1つは実践しようと考えていた」と松永

日出男代表取締役(ユアアンドゆグループ)は話す。

実際に取り組んだことが元日休業の導入である。2000年の創業以来、年中無休はお客様や地域社会のために続けてきたこだわりの取り組みだった。松永さんは「1982年から経営するグループ会社の『諸江の湯』も元日休業を導入した。グループ会社を含め、30年以上続けてきた年中無休をやめることは正直なところ葛藤があった」と話す。しかし、決断を後押ししたのは、普段一生懸命働いてくれている社員とその家族の幸せを願う想いだ。全社員が元日を一齐に休むことによって、気兼ねなく家族と大切な時間を過ごすことが可能となった。社員から「家族と過ごすことができた」という喜びの声が聞こえているという。

#### 働き方改革の成立には サービスの質の向上が必須

同社が次に検討していることが月1回の半日休館の設定である。これにより、接客等に関する社員研修や自社の課題をテーマとした社員の意見交換会等、生み出した時間を活用し、注力していきたい取り組みを実践する考えだ。「単に休みを与えることだけが社員のためになるわけではない。社員研修や業務改善等により、社員とともにサービスの質を向上させ、売上を上げなければ本当の働き方改革は成立しない」と松永さんは話す。

業務改善として、木質バイオマスボイラーのIoTを用いた制御システムを導入していることは大きな特徴だ。これにより、ボイラーの燃焼状態をフロントや外出先でも管理でき、状況に応じた燃料の投入や燃焼の制御をスマートフォン等で操作が可能となった。社員の精神的な負担が軽減され、接客等の業務に集中して取り組めるようになったという。

松永さんが同社のキーワードとして注目するのが、「SDGs(持続可能な開発目標)」だ。SDGsとは、国連サミットで採択された持続可能な世界を実現するために掲げられた17の国際目標であり、その1つには、働き方改革と関連する「働きがいも、経済成長も」という目標が掲げられている。「働き方改革を含め、これまで挑戦してきた取り組みがSDGsに向かっていることに気付き、全ての取り組みがつながった」と松永さんは話す。

これからも同社は、社員とその家族、お客様、地域社会と未来までつながる持続可能な企業経営を目指し、働き方改革を一步一步着実に進めていく考えだ。



「働き方改革に取り組もうとする経営者にとって、『社員とその家族』は心に響くキーワード」と語る松永さん

#### DATE

所在地 野々市市御経塚4-38

代表者 松永 久美子

設立 2000年

従業員数

32名(男:7名/女:25名)

事業内容

一般公衆浴場経営、環境事業、食品製造事業